

20006

冠動脈仮性瘤コイル留置に 3D-OCT が有用であった症例

始めに 3D-OCT は従来の血管内画像システムでは検出が難しい、あるいは評価が困難であった重要な血管の特性を情報として得ることができ、治療部位の解剖学的構造を確認することができる有益なソフトウェアである。特に分岐部病変の治療の strategy には必須のものと考えている。今回、PCI 中に仮性瘤の woozing rupture をが出現した際 3D-OCT 下にて coiling 留置を止血を経験した。症例 73 歳男性、主訴は労作時狭心症。労作時胸痛を認め当院循環器内科を受診され心電図、超音波 の検査を受け外来フォローされていたが、労作時胸痛が増悪したことから労作性狭心症を疑い、冠動脈造影を 施行された。結果#2、3 90%にて、PCI を施行した。途中 POBA している最中仮性瘤に woozing が出現し、インフレーションを続けたが止血できず、c-stop per COIL を留置し、イメージングにて確認。final TIMI3 で終了。まとめ coiling 留置を行う症例の際、coil の使用判断および使用後の病変評価 に 3D-OCT が有用であった症例を経験した。